



2015 (平成 27) 年 5月 22 日 (金) 発行

[発行所] 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>

[発行者] 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 小川鶴藏)

1	はじめに	1
2	次期役員候補 募集のお知らせ	2
3	応用生態工学会 第 19 回郡山大会開催案内	8
4	2015 年度海外学会派遣研究者・技術者の審査結果の報告	15
5	2015 Aquatic Science Meeting 参加報告	16
6	行事開催案内	
	第 7 回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本	17
7	応用生態工学会新潟 勉強会 (事例発表会) 開催報告	21
8	第 2 回河川砂防技術基準 (調査編) をもとにした意見交換会 開催報告	23
9	年間行事予定	24
10	事務局より	26

1 はじめに

2015 年度、初めてのニュースレターをお届けいたします。

例年のことですが、年度初めは会員の皆様には、就職や人事異動、転居など、会員の皆様の情報が変化する時期です。会誌 18-1 も近々発刊の予定です。例年、少なからず宛所に会誌が届かず、返送されています。会員情報の変更をお忘れ無くお願いいたします。

さて、ニュースレター 68 号では、第 19 回郡山大会の開催案内をお届けいたします。**研究発表の受付を開始しました。**6月30日(火)が研究発表申込期限です。研究発表では、研究成果の報告だけでなく、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。また、今大会では、これまでの大会と同様に、テーマを絞って議論ができるよう、従来の口頭発表に加え、テーマを特定した分科会や自由集会を準備したいと考えています。議論したいテーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画・提案を期待するとともに、多くの会員の皆様の発表参加をお待ちしております。また、今大会では、賛助会員による機材、技術等の展示コーナーを設けます。その申込み受付も始めました。

公開シンポジウムのテーマは「生態系機能を活用した減災/防災/復興」、エクスカージョンでは震災復興地のコースも設定しています。どうかご期待のうえ、ご参加ください。

また、今年には役員改選年にあたり、すでに準備が始まりました。理事会では次期役員募集・推薦委員会を設置し、この号では役員候補の募集案内を掲載しました。

テキスト刊行委員会からのお知らせ

テキスト刊行委員会では会員サービスの向上を目的として、大学院生、河川技術者を対象としたテキスト、応用生態工学シリーズの初号発刊を目指して準備を進めてきました。今春には技報堂出版との契約も終わり、今秋には、初号「河道内氾濫原の保全と再生(仮)」を発刊できる見通しとなってきました。また、今年には、シリーズとしての第2号の発刊準備にも着手したいと考えております。学会員のニーズを捉え、有意義なテキストにしたいと考えておりますので、引き続き、皆様からのご意見やアドバイスを頂戴できればと思います。

2 次期役員候補 募集のお知らせ

次期役員募集・推薦委員会

委員長：谷田一三会長

委員：山岸哲元会長、近藤徹前会長

今年度は役員改選期にあたります。本委員会は本年2月6～12日開催の第75回理事会で設置されたのを受け、委員間で協議を行い、以下の要領で次期役員募集を行うことといたしました。会員の皆様におかれましては、以下の要領で候補者の届出をしていただくようお願いいたします。

なお、本委員会の規程(次期役員募集・推薦委員会規程)は、2009年5月11日から施行され、2015年4月1日に最終改正されています。

【届出を受け付ける役員】

会長(1名)および副会長(3名以内)

理事(15名以内)、監事(2名)

※役員選出に関連する学会規約第10, 11, 12, 14, 15条をご確認ください。

また、幹事および幹事長については、学会規約第13条のとおり理事会により候補が推薦されます。

【届出の方法】

自薦・他薦を問いません。会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて、学会事務局まで郵送にて届け出てください。

応用生態工学会 事務局 事務局長：小川 鶴蔵

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL.03-5216-8401 FAX.03-5216-8520

【受付期間】

2015年6月1日から6月30日までの1ヶ月間

【届出の様式】

別紙様式をご利用ください。

【今後の役員選出の流れ】

- (1) 第2回委員会の開催
 - ・候補者の届出や推薦人名簿の確認などを行い、候補者が定員に満たない場合などは、候補者の推薦を行います。
- (2) 候補者の周知と投票
 - ・候補者の周知・投票については、「次期役員募集・推薦委員会規程」の[5]周知・投票に関する調整をご覧ください。
- (3) 総会での選出
 - ・学会規約に基づき、会長、副会長、理事並びに監事は、総会における投票(委任状も含む)により選出されます。

役員候補届出書

平成 27 年 6 月 日

応 用 生 態 工 学 会

次期役員募集・推薦委員会委員長 谷田 一三 殿

届出者 所 属 :

氏 名 :

印

連絡先 :

応用生態工学会の第 10 期 (会長・副会長・理事・監事) 候補として、下記のとおり届出いたします。

記

1. 候補者 (会長・副会長・理事・監事 — いずれかに○)

(1) 氏名 :

(2) 所属・役職 :

(3) 専門分野 :

2. 推薦人名簿 (会長・副会長の届出には、正会員 5 名以上の推薦が必要です)

No.	氏 名	会員番号 (正会員)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

(推薦者が 10 名を超える場合は別紙に記載ください)

次期役員募集・推薦委員会 規程

[1] 目的

本委員会は、学会規約に基づく次期役員の選出を円滑に行うために設置し、立候補者の募集・受付、候補者の推薦、周知など、次期役員候補の推薦までの手続きを調整する。

[2] 設置と構成

本委員会は、役員改選年ごとに設置し、当該年の総会終了後に解散する。委員長（1名）及び委員（2名以上）は、理事会が指名する会員で構成する。

[3] 立候補者の募集・受付

本委員会が立候補を募る役員は、会長、副会長、理事、監事とする。なお、立候補者の募集・受付の基本的な要領は以下のとおりとし、募集案内や日程等を会員に周知するものとする。

- ・役員候補者は正会員とする。ただし、学会規約第11条及び第14条により、会長、副会長及び監事はこの限りではない。
- ・候補者は、自薦・他薦を問わない。
- ・会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて学会事務局に届け出る。
- ・候補者の募集・受付期間は、役員改選年の総会の4ヶ月前～3ヶ月前を基本とする。

[4] 候補者の推薦

本委員会は、候補者の募集期間中に候補者が定員に満たない場合などは、候補者の募集・受付期間経過後に候補者の推薦を行う。

[5] 周知・投票に関する調整

本委員会は、学会事務局が実施する以下の活動の調整を行う。

- ・学会事務局は、立候補者の募集・受付の要領や推薦人名簿の様式等の必要な書類の周知を、学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって行う。
- ・学会事務局は、立候補者もしくは推薦された次期役員候補者を、総会までに学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって会員に周知する。
- ・学会事務局は、総会において次期役員選出のための投票結果をとりまとめる。なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員については、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として評決を委任することができる。

[6] 総会における報告

本委員会は、学会規約第11条、第12条、第14条、及び第15条に基づく総会での役員の選出が円滑に行われるよう、総会において以下に示す報告等を行う。

- ・次期役員候補者の募集・推薦等の経過の報告

[7] 付則

本規程は、平成21年5月11日より施行する。

本規程は、平成21年8月27日改正し、施行する。

本規程は、平成27年4月1日改正し、施行する。

次期役員（第10期）公募から決定までのスケジュール

月	日	曜日	理事会、総会	次期役員募集・推薦委員会	備 考
4月	6	月		第1回次期役員募集・推薦委員会	委員会作業方針、スケジュールの確認 役員公募文の確認
5月	18	月			ホームページに「次期役員候補 募集のお知らせ」を掲載
	22	金			ニュースレターNo.68 発行（「次期役員候補 募集のお知らせ」を掲載）
6月	1～30		役員候補募集		
	18	木	第77回理事会		
7月	6	月		第2回次期役員募集・推薦委員会	次期役員募集状況の確認
	下旬			第3回次期役員募集・推薦委員会	次期役員候補者の最終確認
8月	上～中旬				ホームページ、ニュースレター、メーリングリストで総会開催案内、 次期役員候補者を周知 総会欠席者への委任状提出（メールあるいはハガキ）の依頼
	上～中旬		第78回理事会		幹事長・幹事候補者の推薦審議
9月	12	土	第19回総会		役員選出
	以降				役員から就任承諾書の提出

3 第19回大会開催案内(郡山大会)

応用生態工学会 第19回大会開催案内(郡山大会)

2015年(平成27年)9月10日(木)～9月13日(日)

第19回総会・研究発表会・自由集会・分科会(特定テーマ・セッション)・公開シンポジウム・エクスカージョン

応用生態工学会では、2015年(平成27年)9月10日(木)～9月13日(日)に福島県郡山市にて、第19回大会を開催します。

本大会実施に向け、大会参加と研究発表の受付を開始します。研究発表では、研究成果の報告だけでなく、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。また、今大会では、これまでの大会と同様に、テーマを絞って議論ができるよう、従来の口頭発表に加えテーマを特定した分科会や自由集会を準備したいと考えています。議論したいテーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画・提案を期待するとともに、多くの会員の皆様の発表参加をお待ちしております。

9月12日(土)には、公開シンポジウム『生態系機能を活用した減災/防災/復興』を開催します。招待講演として、米国海洋大気庁(NOAA)のKateryna M. Wowk博士から、米国でのハリケーン・サンディ復興戦略と海岸のレジリエンスについてお話していただく他、九州大学の島谷幸宏教授より日本でのグリーンインフラストラクチャー(GI)に関する取り組み状況等についてご講演していただきます。このシンポジウムは河川整備基金、みちのく国づくり支援事業の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

エクスカージョンは9月10日(木)に三春ダム、9月13日(日)には福島県の海岸防災林・防災緑地事業および仙台南部海岸での防潮堤・湿地の保全状況の視察を企画中です。

なお、本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラム認定に申請予定です。

1. 大会概要

【日程】

第1日目 9月10日(木)：エクスカージョンA, 研究発表, ポスター発表, 分科会, 自由集会

第2日目 9月11日(金)：研究発表(口頭), 分科会, 自由集会, 懇親会

第3日目 9月12日(土)：午前：役員会・総会等, 午後：公開シンポジウム

第4日目 9月13日(日)：エクスカージョンB

スケジュールは、変更することがあります。詳細なスケジュールは、ホームページ(8月上旬)、ニュースレター(No.69発行)でご案内します。

【会場】

研究発表・総会・公開シンポジウム：

日本大学工学部キャンパス 70号館

住所：福島県郡山市田村町徳定字中河原1

URL：<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

<交通>

■ JR東北新幹線

東京駅→郡山駅(やまびこ号 80分)

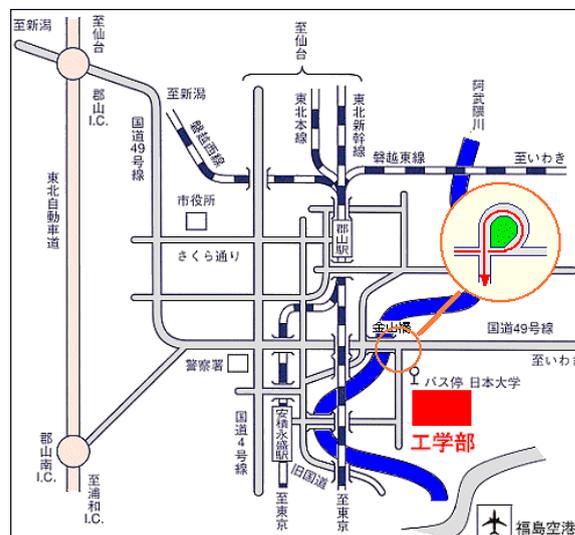
郡山駅→日本大学下車(日大行バス 20分)

■ JR東北本線

郡山駅→日本大学下車(日大行バス 20分)

安積永盛駅下車(徒歩 15分)

■ 福島空港：車で約30分



2. 公開シンポジウム

【テーマ】

生態系機能を活用した減災/防災/復興

【企画のねらい】

国土強靱化基本法に掲げられている「地域の特性に応じて、自然との共生及び環境との調和に配慮」する方針は、応用生態工学会が目指す「人と生物の共存」、「生物多様性の保全」、「健全な生態系の持続」を海岸や河川において実現していくことと一致している。特に、東日本大震災被災地等で進められている復興・防災・減災事業から有効な教訓を抽出することが重要であると考えられる。

復興・防災・減災事業では、地域の自然環境・生態系ネットワークを適正に保全・管理する必要がある。それを実現する手段として、近年、多様な生態系を重要な社会基盤とみなすグリーンインフラストラクチャー（GI）の考え方に注目が集まっている。しかし、GIに関しては、防災・減災機能に関する技術的評価や維持管理、ガバナンスのあり方も含めて、課題や有効性について議論を深める必要がある。そこで、本シンポジウムでは、第一線の研究者を一堂に集め、最新の技術的知見や研究課題を共有し、土木技術と生態学の融合をめざす応用生態工学との接点を明らかにするとともに、課題解決に向けた方向性について議論を行い、今後の研究の進展と実事業への適用の出発点となることを目指す。

【プログラム(案)】

13:00 開会 趣旨説明

13:10 招待講演 (同時通訳あり)

- 1) Kateryna M. Wowk 博士 米国海洋大気庁 (NOAA) 主席エコノミスト室上席社会科学官
- 2) 島谷 幸宏 (九州大学大学院工学研究院 教授)

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター: 風間 聡 (東北大学大学院工学研究科 教授)

パネリスト: Kateryna M. Wowk 博士

島谷 幸宏 (九州大学大学院工学研究院 教授)

古田 尚也 (国際自然保護連合 シニア・プロジェクト・オフィサー)

諏訪 義雄 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長)

16:45 終了予定

【会場】

日本大学工学部キャンパス 70号館 7014大ホール

3. 研究発表募集

応用生態工学会大会における研究発表の受け付けを開始します。発表方法は、「ポスター発表」と「口頭発表」とします。下記要領に基づき応募して下さい。

〔1〕研究発表内容

応募できる研究発表の内容は、応用生態工学に関する研究や事例の報告およびその他です。発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、研究報告が予報的な内容であってもかまいません。

〔2〕発表方法

応募にあたっては、「ポスター発表」か「口頭発表」のいずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては、実行委員会でご変更をお願いする場合があります。

〔3〕発表時間

口頭発表の発表時間は、1課題当たり15分(発表12分、討論3分)程度で、申込数により決定します。

〔4〕研究発表申込 6月30日(火) 17:00 までを厳守して下さい。

研究発表は、以下の内容について、応用生態工学会ホームページ又は電子メールでお申し込みください。

電子メール申込先：koriyama_19th@ecesj.com

＜申込記入事項＞

1. 発表者名（フリガナ）および連名者名（フリガナ）と各々の所属（会員番号）
（会員番号：連名者が非会員である場合、番号は不要）
2. 研究発表題目
3. 連絡先（〒、住所、氏名、TEL、FAX、E-mail）
4. 研究発表概要（和文 200 字程度）
5. 希望する発表形態（「ポスター発表」または「口頭発表」）
6. 研究報告、事例報告の別
7. キーワード（調査地域・調査対象を含め 5 つ程度）
[調査地域（例）]
河川、湖沼、ダム貯水池、汽水域、海域、森林、水田、畑地、道路、都市、農村等
[調査対象（例）]
生態系・景観、陸上植物、陸上動物、水生植物、底生動物、プランクトン、鳥類、魚類等
8. 発表賞の審査対象となる希望の有無
発表賞の審査対象になることを希望するか否かをお知らせ下さい。
なお、審査対象要件は以下のとおりです。
1) 若手研究者（学部学生、大学院生、ポスドク等の若手会員）
2) 現場技術者または行政担当者
※研究・事例の別を問わず、過去に最優秀発表賞の受賞歴がある方は発表賞の審査対象になることはできません。
※登壇者が変更になった場合は審査対象から除外されます。受付に申し出てください。

提出いただいた概要をもとに発表の振り分けを開始いたしますので、簡潔かつ具体的な研究内容を可能な限り明示して下さい。

後日、事務局より受付および「ポスター発表」か「口頭発表」の確認連絡をいたします。

〔5〕研究発表要旨の原稿の提出は 7月17日(金) 17:00 までを厳守して下さい。

研究発表者（口頭発表およびポスター発表いずれも同じ）は、研究発表要旨原稿（A4 版 1 枚）を期日までに事務局へ提出して下さい。原稿は、応用生態工学会ホームページの研究発表要旨原稿サンプルを参考に、作成して下さい。

なお、ポスター作成要領、口頭発表要領および関連スケジュールを 8 月上旬に応用生態工学会ホームページにアップロードする予定です。

＜研究発表要旨原稿作成要領＞

研究発表要旨については査読を行いません。要旨集にもその旨を記載いたします。

- ・ A4 版用紙、縦位置、1 枚
- ・ 余白：左右 15mm、上下 18mm
- ・ 横一段組み、中央に「講演題目」を和文にて、14 ポイントの文字、2 行以内で記入。
- ・ 題目の下 1 行空け右寄せで「講演者名、連名者名、各々の所属」を、12 ポイントの文字で記入。
- ・ 本文は、10 ポイント・明朝。
- ・ 原稿はそのまま印刷できるイメージの PDF ファイルとして作成し、E-mail に添付して koriyama_19th@ecesj.com 宛にお送り下さい。なお、印刷はモノクロです。

〔6〕研究発表者資格

研究発表者は、応用生態工学会の正会員、学生会員および賛助会員法人に所属する個人とします。なお、連名者については会員・非会員を問いません。但し、研究発表者が学生の場合、連名者に会員がいれば可とします。

〔7〕 発表賞

ポスター発表, 口頭発表のそれぞれを対象とします。9月12日(土)午前中に開催される総会終了後に表彰を行います。

Call for Presentations

Submission of presentations is now open for the 19th Annual Meeting of the Ecology and Civil Engineering Society (ECES) in Koriyama City, Fukushima Pref. Categories of presentations are either research reports, case studies or other topics in the field of ecology and civil engineering. Two types of presentation, poster or oral, are acceptable in English along with Japanese. Please submit your presentation in line with the following guidelines.

[1] Topics

Acceptable presentations should be research reports and case studies on topics in relation to ecology and civil engineering. Preliminary research reports will be also acceptable, if they are applicable to various fields of ecology and civil engineering.

[2] Presentation types

Please notify your preferred presentation type (poster or oral) in your submission. Note that we might ask you to change your presentation type (poster or oral).

[3] Duration of oral presentation

Each oral presentation would be ca. 15 minutes long (12 minutes for presentation followed by a 3-minute discussion period).

[4] Deadline of application: 17:00 (JST) , June 30 (Tue), 2015

If you wish to give a poster or oral presentation in English, please send your application to Ecology and Civil Engineering Society (koriyama_19th@ecesj.com) by e-mail with the following items.

<Required items on the application form>

1. Full name of a presenter, his or her professional affiliation and membership number. If the presenter has co-authors, full names of all co-authors, their professional affiliations and membership numbers (if they have) should also be written.
2. Title of presentation
3. Contact address of a presenter:
Postal and e-mail addresses, tel. & fax. numbers
4. Summary of presentation in 7 lines or 150 words
5. Preferred type of presentation (poster or oral)
6. Category of presentation (research report, case study)
7. Keywords (about 5 words relating to study sites and materials as listed below)
Study sites: Rivers, lakes, reservoirs, brackish waters, seas, forests, paddy fields, dry farmlands, roads, urban areas, rural areas, etc.
Materials: Ecosystem and landscape, terrestrial plants, terrestrial animals, aquatic plants, plankton, benthic animals (invertebrates), birds, fishes, etc.
8. Application for the Presentation Award
Please let us know whether you will apply for the Presentation Award or not.
Presentation Award qualifications:
 - 1) Young society members (undergraduates, graduate students, or postdocs etc.)
 - 2) Field technicians or administrative officers

- Note that members who won the Best Presentation Award at past ECES meetings cannot apply for the Presentation Award.
- If presenter is changed, please let us know as soon as possible. The presentation will be out of grading.

Presentations will be sorted into designated sessions based on the contents of submitted summaries. The summary should be made brief and specific for the purpose. The notification of acceptance and the designated presentation type (poster or oral) will be informed by the secretariat of ECES later.

[5] Deadline for abstract submission: 17:00 (JST) , July 17 (Fri), 2015

For each presentation (oral or poster), abstract should be submitted to the secretariat of ECES by the deadline. The manuscript should be prepared in line with the following instructions.

Further instructions for the presenters such as instruction for preparing poster and the presentation schedule will be uploaded to the web site of ECES on August 10 (Mon), 2015.

<Instructions for presentation abstracts>

The secretariat will not review abstracts.

Please use 1 sheet of A4 paper.

Right and left margins should be more than 15 mm, and top and bottom margins should be more than 18 mm.

The title of your presentation should be one column and centered. The length of the title should be within 2 lines and the font size should be in 14 points.

Full names of the presenter and co-authors with their affiliations should be inserted right-aligned after inserting one blank column below the presentation title. The font size should be in 12 points.

The main text should be in 10 points. The font should be representative Roman such as Times New Roman.

Please submit a camera-ready manuscript which includes figures and tables. Please send a PDF of the manuscript as an e-mail attachment to koriyama_19th@ecesj.com. The Printing of manuscript letters should be in black.

[6] Qualification of presenters

Presenters at oral sessions and a main contributor at poster sessions should be the ordinary member, student member or any people belonging to the supporting member company of the ECES (co-authors need not be ECES members). However, presentations by students who are not ECES members are also acceptable if at least one of their co-authors is an ECES member.

[7] Presentation awards

The Ecology and Civil Engineering Society (ECES) confers "Presentation Awards" at the Annual Meeting to excellent posters and oral presentations. Winners of the Awards will be announced after a general meeting held in September 12 (Sat), 2015.

4. 分科会・自由集会企画募集!

今大会ではテーマを絞って議論を深めるために、分科会や自由集会を開催できる小会場を複数確保しています。議論したいテーマをお持ちの方は積極的に申し出ください。なお、会場数及び開催時間帯は限られていますので、どうかお早くご連絡いただき(6月30日(火)まで)、ご相談ください。

(連絡先) E-mail: koriyama_19th@ecesj.com

5. エクスカーション

〔1〕 エクスカーションA

【企画のねらい】

三春ダムは郡山市に隣接した三春町に位置し、その洪水調節機能によりダム下流の災害リスク低減に大きく寄与するとともに、貯水池水位変動帯に関する様々な研究やオオクチバス・ブルーギルの防除の取り組みが行われている国の多目的ダムである。三春ダム貯水池における生態系研究のフィールドを訪ね、その取り組みについて学ぶ。

【日程(案)】

9月10日(木)	9:45	JR 東北本線「郡山駅」東口広場	集合・出発
	10:15	三春ダム着、堤体、ダム下流還元土砂置場見学	
		蛇石川前貯水池下流 (水位変動域のヤナギ林)	
		蛇石川前貯水池 (ブルーギル産卵床の干し上げ試験箇所)	
	12:15	田園生活館へ移動	
	12:30	昼食	
	13:15	三春ダム発	
	13:45	日本大学工学部正門着 (大会会場)	解散

※定員 20名先着順とします。

〔2〕 エクスカーションB

【企画のねらい】

福島県沿岸および仙台南部海岸は、東日本大震災による地盤沈下と津波により海岸域の生態系に大きな変化が生じた。現在、防潮堤のほか海岸防災林・防災緑地などの復旧事業が急ピッチで進められる中、生物多様性保全のために震災前の貴重な干潟の復元、新たな干潟の創出などの生態系復元の取り組みが行われている。福島県の相馬市松川浦・新地町では海岸防災林・防災緑地の施工現場を訪れる。また、宮城県仙台南部海岸では、名取川河口の井土浦周辺を訪れ、それぞれの震災復興、干潟、湿地の震災後の現状と生態系復元の取り組みについて学ぶ。

【日程(案)】

9月12日(土)	17:00	公開シンポジウム終了、日大工学部からバスで移動
	18:30	いわき市湯本温泉 (宿泊)
	18:30	茶話会 (松川浦の生態系特性と生態系復元の取り組み)
		講師：福島大学 教授 黒沢高秀
		(井土浦の干潟生態系の復元と生態系サービス)
		講師：東北大学大学院 教授 占部城太郎
9月13日(日)	8:15	いわき湯本温泉 出発 (常磐道経由)
	10:00	相馬市松川浦 (海岸防潮林造成事業を見学)
	11:00	新地町 (造成中の埴浜防災緑地を見学)
	11:45	新地町 発
	12:30-13:15	昼食 (「田園」 互理店を想定)
	14:00	井土浦 (名取川河口左岸) (井土浦の現況と防潮堤防工事進捗を見学)
	15:15	仙台空港へ移動
	15:45	「仙台空港」着
	16:30	「仙台駅」東口バスプール解散

※定員 50名先着順とします。

6. 懇親会

懇親会は、第2日目9月11日(金)の研究発表(口頭)、分科会、自由集会の終了後に行います。また、毎回好評の「全国からのお土産(お酒・おつまみ)」コーナーもご用意しますので、会員同士の交流・情報交換の場として、ぜひご参加ください。

【日時】

平成27年9月11日(金) 18時ごろから

【会場】

日本大学工学部キャンパス 70号館9階多目的ホール

7. 賛助会員の企業展示発表

<展示要領>

- ・企業案内、機材、技術等の展示
- ・ポスター展示用のボードパネル(高さ180cm×幅90cm×2枚)と机(折りたたみ、横幅180cm×奥行45cm×高さ70cm予定)、説明員用イス1脚は準備いたします。これ以外に電源等が必要な場合は、各自でご準備してください。パンフレットの配布も可能です。
- ・申し込み費用：無料
- ・展示期間：9月10日(木)～9月11日(金)の2日間
- ・場所：70号館1階ロビー(ポスター発表と同じフロア)

※ 展示を希望する企業は、6月30日(火)17:00までに企業展示発表希望と明示し、企業名、展示内容(種別)を、下記の申し込み先メールアドレス宛にお送り下さい。申込みが多数となった場合は、先着順とさせていただきます。

企業展示発表申込先：koriyama_19th@ecesj.com

8. 大会参加費

〔1〕研究発表会

正会員・賛助会員：6,000円、非会員：10,000円、学生(学生会員・非会員)3,000円。

参加費には講演要旨集が含まれています。講演要旨集のみ希望の方は、3,000円で販売しています。

※大学周辺には飲食店はなく、コンビニエンスストアのみです。平日は学食が営業していますが、土曜日は営業していませんので、別途1,000円でお弁当が用意できます。事前にお申し込みください。

〔2〕エクスカージョン

① Aコース(三春ダム)

正会員・賛助会員：2,000円、非会員：3,000円、学生(学生会員・非会員)：1,500円(昼食代含む)

② Bコース(松川浦・仙台南部海岸)

正会員・賛助会員：1,000円、非会員：3,000円、学生(学生会員・非会員)：1,000円(昼食代含む)

※別途宿泊費(1泊2食付)12,000円+交流会費(3,000円程度)を各自でお支払いください。

〔3〕懇親会

正会員・賛助会員・非会員5,000円、学生(会員・非会員)3,000円

懇親会費は、当日徴収いたしますが、人数を把握するため、事前にお申し込みください。

9. 参加申し込み方法

学会のホームページやチラシよりお申し込み下さい。

詳細なスケジュールは、次号(No.69, 8月上旬配信予定)のニュースレターやホームページでご案内いたします。

10. その他

- ・開会期間中の宿泊について、大会事務局として斡旋はいたしません。各自でご手配ください。
- ・9月10日(木)～11日(金)は、11:30～13:30まで、学内の食堂の利用が可能です。また、9月10日(木)～12日(土)は、お弁当(1,000円お茶込み)の準備も可能です。必要な方は、大会参加申込時にお申し込み下さい。 ※会場周辺には、食堂やコンビニエンスストアはほとんどありません。
- ・大会期間中、会場では、wi-fiの利用が可能です。利用方法については、会場で案内を出しますので、設定は各自でお願いします。

11. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局
〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405号室
TEL : .03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520
E-mail : koriyama_19th@ecesj.com

4 2015年度海外学会派遣研究者・技術者の審査結果の報告

国際交流委員会委員長 吉村千洋

国際交流委員会では、2015年度海外学会派遣研究者・技術者の応募を行いました。2月20日から3月31日を募集期間として、学会ホームページ、ニュースレター、メーリングリストによる募集を行った結果、5名の研究者からの応募を頂きました。その後、4月に開催した国際交流委員会において、応募者5名の申請内容を規定の審査基準で審査し、派遣者1名を選考しました。派遣者および派遣の概要は以下の通りです。派遣後には学会参加報告をニュースレターおよび会誌「応用生態工学」（トピックとして）に掲載する予定です。

2015年度海外学会等への派遣

氏名：石山信雄氏（北海道大学農学院）

派遣先：SFS Annual Meeting 2015 “Our Freshwater Futures”（アメリカ、ミルウォーキー）
（SFS: Society for Freshwater Science）

学会開催日：2015年5月17～22日（口頭発表有り）

助成額：20万円

5 2015 Aquatic Science Meeting 参加報告

ライブニッツ淡水生態学・内水漁業研究所 (現：愛媛大学工学部環境建設工学科)
八重樫 咲子

1. はじめに

このたび応用生態工学会の2014年度の海外学会への派遣助成制度を受け、スペインのグラナダで2015年2月22日から2月27日まで開催されたASLO 2015 Aquatic Science Meetingに参加させていただきました。本稿にて、その概要をご報告いたします。

2. 大会概要

本大会は Association for the Science of Limnology and Oceanography (和名：先進陸水海洋学会)の主催で、1年おきの2月に開催されます。開催地は主にアメリカですが、本大会はスペインで行われました。Aquatic Meetingでは海陸問わず全ての水環境をフィールドにした研究発表が行なわれています。本大会では Global and regional perspectives North meets South をテーマに、5日の間に朝8時から夜の20時まで100以上のセッションが開催され、1900件以上の口頭発表と500件以上のポスター発表が行なわれました。また、ランチタイムには論文作成・研究資金獲得に関するワークショップやサイエンスに関連した講演会が毎日開催され、夜には Early/ Student career meeting や各種レセプション、市街地のナイトツアーなどが企画されていました。本大会で全ての口頭発表を聞き、全てのポスター発表をまわることとは不可能なため、参加者は会場で配布されたプログラムから興味のある分野・発表を絞らなくてはなりません。

3. 発表セッションと内容

私は Biological connectivity and its importance within context of global change というタイトルのセッションで口頭発表を行ないました。このセッションでは、群集・生物集団の連続性に関する研究が集められ、21件の口頭発表と3件のポスター発表が行なわれました。発表者は陸から海まで、遺伝子から群集まで、在来種から外来種までと、世界中のありとあらゆるフィールドで研究を行っていました。このセッションの中で私は、水生昆虫の遺伝子集団の標高間の住み分けと住み分けた集団間の遺伝子流動について発表を行ないました。本セッションでのディスカッションを通して、生物集団の移動研究の重要性を再認識しました。

4. おわりに

今回は2度目のASLOの大会参加でしたが、同じ学会に継続して参加することが、学会や自身の研究分野のトレンドの探索に繋がると感じました。例えば、本大会では2012年の大津大会と比べ、大規模DNA解析を用いた研究が増加したように感じました。大会毎にセッションの構成が異なるため一概には言えないのですが、有用な新しい技術が分野内に広がり常識になる過程を、私は見ているのかもしれないと感じました。

また学会の開催されたグラナダでは既に春が到来しており、前日雲一つない快晴でした。このような晴れ晴れとした天気が参加者の心を開き、有意義なディスカッションがそこら中で生まれていたと感じました。また、今回、学会参加では始めてホテルを使用したのですが、ここでもイタリア人やドイツ人、ブラジル人といった各国からの学会参加者との出会いがありました。

最後になりましたが、このような貴重な機会と経験を与えて下さった応用生態工学会に心より御礼申し上げます。



6 第7回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本 開催案内

応用生態工学会全国フィールドシンポジウム第7回目となる今回は、初めて九州で開催します。2日目フィールドツアーはご好評につきバスを増便いたしました。残りのお席がわずかですのでお早めにお申込み下さい。

1日目シンポジウムはまだお席に余裕があります。たくさんのお申込みをお待ちしております。

※集合場所、CPD単位数等、ニュースレター前号から一部変更があります。下記をご確認ください。

第7回 応用生態工学会 全国フィールドシンポジウム in 熊本 ～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～

趣旨：

近年、世界各地で河川に流出する土砂を適正に制御する技術が求められています。

土砂生産の多い日本では、防災・資源・環境のいずれの側面においても、流域スケールで総合的に土砂管理計画を立てる必要があります。そのためには、供給される土砂の量や質に対する河川、河口干潟、沿岸海域の生態系の応答を知り、土砂管理の環境目標を示すことが不可欠ですが、未だ定量的研究が少ないのが実状です。

今回のフィールドツアーでは、2012年から撤去が始まった熊本県球磨川の荒瀬ダムから八代干潟までの現場を視察し、土砂供給にともなう下流河川や干潟環境の現状を多様な分野の視点で確認したいと思います。また、シンポジウムでは、球磨川の荒瀬ダム撤去の事例に加えて、耳川の利水ダム群の改造事例、河口・沿岸域の環境再生事例等も交えて、応用生態工学的な観点から、河川・沿岸環境の変化と土砂管理のありかたについて議論をしたいと思っております。

主催：応用生態工学会

共催：熊本大学 九州大学

後援：熊本県企業局・(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部・(公社)日本技術士会九州本部

実施主体：応用生態工学会福岡

【1日目：シンポジウム：6月12日（金）】

■シンポジウム会場：熊本市国際交流会館（熊本市）<http://www.kumamoto-if.or.jp/kcic/>

○13：00～16：20 講演

13：00 開会 司会：皆川朋子（熊本大学）

13：10～基調講演：流域の持続的管理を目指した貯水池土砂管理：角哲也（京都大学）

13：50～一般講演：

1) 荒瀬ダムの撤去と周辺環境の変化：熊本県企業局

2) 耳川水系ダム通砂に伴う河川環境変化の把握に向けた取組み：九州電力（株）

3) 八代干潟の底質と生物の応答：鬼倉徳雄（九州大学）

4) 有明・八代海の環境特性と再生方策：滝川清（熊本大学）

5) 河川の土砂管理と自然再生：島谷幸宏（九州大学）

○16：20～17：20 パネルディスカッション

（講演者、コメンテーターを交えて）

コメンテーター：竹門康弘（京都大学）・島谷幸宏（九州大学）

17：25 閉会

○18：00～ 懇親会（会場：熊本市内）

【2日目：フィールドツアー：6月13日（土）】

■フィールド：球磨川流域（八代市）

9：00～ 市民会館崇城大学ホール前発（シンポジウム会場の向かい）

10：15～ 新八代駅発

10:45～ 荒瀬ダム等視察
11:50～ 昼食
13:10～ 球磨川河口干潟等生物観察
15:10～ 遥拝堰下流視察
15:50～ 新八代駅着
16:50～ 熊本空港着
17:40～ 市民会館崇城大学ホール前着

※フィールドツアー行程は予定であり、変更が生じる可能性があります。

■参加費：

シンポジウム：学会員 1,500 円、非会員 2,000 円、学生 1,000 円（資料代込・当日会場にて徴収）
フィールドツアー：バスとお弁当で 一律 3,000 円程度
懇親会費：一律 5,000 円程度

■定員：シンポジウム：230 名 フィールドツアー：70 名

■参加申込方法：下記事項を明記の上、Eメールで n-sakai@wjec.co.jp 宛にお申込み下さい。

- ・所属
- ・氏名・連絡先
- ・応用生態工学会会員（会員番号）・非会員一般・非会員学生
- ・参加内容（シンポジウム・フィールドツアー・懇親会）

※フィールドツアーでは泥干潟を観察しますので、汚れても良い靴・服装をご準備下さい。

【申込み〆切】

フィールドツアー：5月30日(土)

シンポジウム：6月10日(水)

※資料・バスの準備の都合上、既にお申込みの方のキャンセルの場合は恐れ入りますが5月30日までにご連絡をお願い致します。直前のキャンセルの場合は資料代を頂戴いたします。

■申込・お問い合わせ先：応用生態工学会福岡事務局 酒井奈美

Eメール：n-sakai@wjec.co.jp Tel:092-781-2625（西日本技術開発(株)環境部内）

※本シンポジウムは（一社）建設コンサルタント協会のCPD認定プログラムです。

（6/12：3.83単位、6/13：4.66単位 当日受講証明書配布）

第7回 応用生態工学会全国フィールドシンポジウムin熊本 ～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～

主催: 応用生態工学会
共催: 熊本大学 九州大学
後援: 熊本県企業局
(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部
(公社)日本技術士会九州本部
実施主体: 応用生態工学会福岡

1日目: シンポジウム: 6月12日(金)

シンポジウム会場: 熊本市国際交流会館(熊本市)

■13:00～16:20 講演
13:00 開会 司会: 皆川朋子(熊本大学)
13:10 基調講演: 流域の持続的管理を目指した
貯水池土砂管理
角哲也(京都大学)

13:50 荒瀬ダムの撤去と周辺環境の変化
熊本県企業局
14:10 耳川水系ダム通砂に伴う河川環境変化
の把握に向けた取組み
九州電力(株)

～休憩～

14:45 八代干潟の底質と生物の応答
鬼倉徳雄(九州大学)
15:15 有明・八代海の環境特性と再生方策
滝川清(熊本大学)
15:45 河川の土砂管理と自然再生
島谷幸宏(九州大学)

～休憩～

■16:20～17:20 パネルディスカッション
(講演者、コメンテーターを交えて)
コメンテーター: 竹門康弘(京都大学)
・島谷幸宏(九州大学)
17:25 閉会
■18:00～ 懇親会(会場: 熊本市内)

2日目: フィールドツアー: 6月13日(土)

フィールド: 球磨川流域(八代市)

9:00～ 市民会館崇城大学ホール前発(シンポジウム会場の向かい)
10:15～ 新八代駅発
10:45～ 荒瀬ダム等視察
11:50～ 昼食
13:10～ 球磨川河口干潟等生物観察
15:10～ 遥拝堰下流視察
15:50～ 新八代駅着
16:50～ 熊本空港着
17:40～ 市民会館崇城大学ホール前着

※フィールドツアー行程は予定であり、変更が生じる可能性があります

応用生態工学会では、現地視察によって問題意識や現場のニーズを共有し、学会が取り組むべき研究課題を発掘することを目的に各地で“フィールドシンポジウム”を開催しています。

7回目となる今回は、初めて九州で開催します。

近年、世界各地で河川に流出する土砂を適正に制御する技術が求められています。土砂生産の多い日本では、防災・資源・環境のいずれの側面においても、流域スケールで総合的に土砂管理計画を立てる必要があります。

そのためには、供給される土砂の量や質に対する河川、河口干潟、沿岸海域の生態系の応答を知り、土砂管理の環境目標を示すことが不可欠ですが、未だ定量的研究が少ないのが実状です。

今回のフィールドツアーでは、2012年から撤去が始まった熊本県球磨川の荒瀬ダムから八代干潟までの現場を視察し、土砂供給にともなう下流河川や干潟環境の現状を多様な分野の視点で確認したいと思います。

また、シンポジウムでは、球磨川の荒瀬ダム撤去の事例に加えて、耳川の利水ダム群の改造事例、河口・沿岸域の環境再生事例等も交えて、応用生態工学的な観点から河川・沿岸環境の変化と土砂管理のありかたについて議論をしたいと思います。

■参加費: シンポジウム: 学会員1,500円、非会員2,000円、学生1,000円程度を予定しています。(資料代込・当日徴収)
フィールドツアー: バスとお弁当で 3,000円程 懇親会費: 5,000円程を予定しています。

■参加申込先: 所属・氏名・連絡先・会員(会員番号)or非会員参加内容(シンポジウム・フィールドツアー・懇親会)を明記し、Eメールでn-sakai@wjec.co.jp宛にお申し込みください。

■定員: シンポジウム: 230名、フィールドツアー: 70名(先着順)

【申込み〆切】

フィールドツアー: 5月30日(土)
シンポジウム: 6月10日(水)

※キャンセルの場合は5月30日までにご連絡下さい
(直前のキャンセルは資料代を預金致します)

■お申込み・お問合せ先: 応用生態工学会フィールドシンポジウムin熊本事務局
応用生態工学会福岡 酒井奈美(西日本技術開発(株)環境部内)
Eメール: n-sakai@wjec.co.jp Tel:092-781-2625

※本シンポジウムは(一社)建設コンサルタンツ協会のCPD認定プログラムです(6/12:3.83単位、6/13:4.66単位 当日受講証明書配布)

6月12日 シンポジウム会場案内

【熊本市国際交流会館 ホール(6・7階)】



熊本市国際交流会館

所在地:熊本市中央区花畑町4番18号
 電話番号:096-359-2020
 HP:<http://www.kumamoto-if.or.jp/kcic/default.asp>

【JR熊本駅より】

- ◆ 熊本市営電車で約10分、花畑町下車、徒歩約3分
- ◆ 路線バスで約10分、交通センター下車、徒歩約3分
- ◆ タクシーで約10分

【熊本空港より】

- ◆ 車で約45分
- ◆ 九州産交バスで約45分、交通センター下車、徒歩約3分

【九州自動車道】

- ◆ 熊本インターチェンジより車で約30分
- ◆ 益城熊本空港インターチェンジより車で約30分

【熊本交通センターより】



6月13日 フィールドツアー集合場所
 【市民会館崇城大学ホール前(熊本市市民会館)】

※シンポジウム会場の向かいの道路です。
 ※前日から宿泊される方は、熊本バスセンター周辺がホテルも多く便利です。

市民会館崇城大学ホール前

所在地:熊本県熊本市中央区桜町1-3
 電話番号:096-355-5235
 HP:http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=751

参加費・受付人数(当日会場でお支払いください)

	定員	応募〆切	参加費		
			会員・賛助会員	非会員	学生
フィールドツアー	40人	6月5日	一律¥3,000		
シンポジウム	230人	6月10日	¥1,500	¥2,000	¥1,000
懇親会	-	6月10日	一律¥5,000		

参加ご希望の方は下記内容を記載の上、Eメールにてn-sakai@wjec.co.jp宛にお申込み下さい。

- ①氏名:
- ②所属:
- ③種別:応用生態工学会会員(会員番号)・非会員一般・非会員学生
- ④Email:
- ⑤電話番号:
- ⑥参加内容:シンポジウム(6月12日)・懇親会(6月12日)・フィールドツアー(6月13日)

※フィールドツアーでは泥干潟を観察しますので、汚れても良い靴・服装をご準備下さい

申込先: 応用生態工学会福岡 (事務局: 酒井) n-sakai@wjec.co.jp Tel: 092-781-2625

※ご連絡を頂きました個人情報は、厳正に管理し、シンポジウム関連のお知らせおよび応用生態工学会の活動案内以外には使用いたしません。

7 応用生態工学会新潟 勉強会（事例発表会）開催報告

実行委員 大川 重雄
(新潟地区普及・連携委員, (株)建設技術研究所)

■ 勉強会の趣旨

応用生態工学会新潟では、現在北信越地区5県（新潟、富山、石川、福井、長野）の持ち回りで「北信越ワークショップ」を開催しております。新潟地域では2011年（H23）に開催し、本年はその中間年にあたり、WSは来年（2016年）を予定しております。

そこで学会員の皆様の日ごろの研究成果をご紹介いただき、技術の研鑽と会員相互の親睦を深める機会として事例発表会を計画いたしました。

この勉強会は応用生態工学会が目標としている「人と生物の共存」、「生物多様性の保全」、「健全な生態系の持続」に関する基礎的研究、応用的研究、実践的活動の成果を発表し、議論をして知識を深めていただくために開催したものです。

■ 勉強会

- 日時 平成26年11月29日（土）14時～17時
- 場所 クロスパルにいがた301-302講座室
：新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地
- 参加人員 40人
- 後援：国土交通省北陸地方整備局
新潟県ビオトープ管理士会



開催状況

■ プログラム

- (1) 「粗朶を利用した魚の隠れ家の機能検証」
佐藤高*（長岡技術科学大学大学院 生物機能工学専攻）
- (2) 「阿賀野川の治水と自然営力による河川環境の改変」
山崎友子*（北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所 調査課）
- (3) 「宮中取水ダムにおける魚道構造改善および順応的管理について」
竹内洋介*（東日本旅客鉄道株式会社 信濃川発電所業務改善事務所 河川環境調査グループ）
- (4) 「湿地環境を目指した上八枚地区の河道掘削について」
今井英明*（北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所 調査設計課）
- (5) 「福島潟で越冬するオオヒシクイの生息地管理方法の提案」
向井喜果*（新潟大学大学院 自然科学研究科）

■ 講演概要

- (1) 「粗朶を利用した魚の隠れ家の機能検証」

近年、カワウによる内水面漁業被害が深刻な社会問題となっている。河川におけるカワウからの魚の隠れ場所を創出することを目的とし、粗朶沈床と木工沈床の構造を利用した魚の隠れ家を設置し、隠れ家の耐久性、魚類による利用状況および隠れ家に付着する餌料生物のバイオマス量についての調査を行った。

魚野川の新柳生橋付近に魚の隠れ家(10.5×2.3×0.9 m)3基を設置し、隠れ家の耐久性（土砂の堆積、流速調査）、魚類利用状況（潜水目視、CCDカメラ定点調査）、バイオマス調査（底生生物、藻類調査）を行った。この結果、流速が早いと隠れ家が崩壊するが、暖流だと堆積することになる。また、多様な魚種が隠れ家周辺で確認され、隠れ家は良好な生息環境を与えていると考えられる。

(2) 「阿賀野川の治水と自然営力による河川環境の改変」

近年、砂礫河原が全区間で減少しており、砂礫河原の面積は、砂利採取の影響により昭和初期に比べて約1/5に減少している。一方で樹林面積は昭和30年代に比べ、約3倍に増加しており、その維持管理が課題となっている。

樹木伐採の効果についてH23.7洪水におけるH20～H22の樹木伐採効果は大きく、治水上重要な役割を果たした。また、樹木伐採箇所では、洪水による高水敷の攪乱により、重要種の新たな再生が確認された。樹木伐採モニタリングについては、伐採から4年程経過している中新田地区においては、ヤナギの再繁茂が確認されており、その地盤高は融雪期の水位とほぼ一致していた。伐採費用のコスト削減の観点からも、切株からの萌芽抑制の手法を早急に確立する必要がある。

(3) 「宮中取水ダムにおける魚道構造改善および順応的管理について」

宮中取水ダムは、信濃川河口から約134kmに位置し、右岸側には総落差11mの魚道が設置されており、ダム下流部との流れの連続性、魚道内の流れが不安定という2つの課題が挙げられている。

流れの連続性については、魚道とダム下流部の流れの連続性を確保する新放流パターンを見出すとともに、実魚の遡上効果を検証することで新放流パターンの有効性を確認した。従来大型魚道、小型魚道の構造に加え、遊泳力の小さい水生生物に適したせせらぎ魚道を整備し、信濃川中流域の水生生物の多様性に対応した魚道へと改善することができた。また、せせらぎ魚道内のフラッシュ放流を行うことで、遊泳力の小さな魚種の遡上環境の維持が確認でき、遡上環境の保全および創造性の有効性を検証できた。

(4) 「湿地環境を目指した上八枚地区の河道掘削について」

信濃川下流域では、平成16年出水後の復緊事業による堤防整備が進められ、今後は不足している河道断面を解消するための河道掘削が必要となっている。そこで、河道掘削にあたっては、ハクチョウ類、トキを代表種として選定し、これらの生態を考慮して掘削形状を検討することとした。掘削区間の下流側には、ハクチョウの休息場、洪水時魚類の避難場所となるワンド、上流には流れのあるクリークをすることにより、水生生物の生息域を期待し、浅場となる箇所はトキが採餌できるよう、また、ヤナギ類の種子散布時期である5月下旬～6月下旬にかけては、広範なヤナギ群落や土砂堆積が生じないようにするため、掘削面が冠水するように掘削高を平水位-15cm～-30cmに設定するものとした。今後、湿地環境及び生物生息環境の創出についてモニタリング調査を実施する。

(5) 「福島潟で越冬するオオヒシクイの生息地管理方法の提案」

オオヒシクイの採餌環境特性を説明する統計モデルを作成することにより、本種の採餌場所選択に寄与する環境要因を明らかにするとともに、福島潟周辺地域における潜在的な採餌適地を抽出する。次に、福島潟および周辺水田において、オオヒシクイが利用している餌種とその利用頻度をDNAバーコーディングと安定同位体比分析を組み合わせることで明らかにする。上記2つの結果から、採餌適地に出現した餌資源の現存量を推定し、直接観察から得られたオオヒシクイの必要エネルギー量と比較することで、福島潟周辺におけるオオヒシクイの環境収容力を評価し、本種の越冬地の管理方法について提案を行った。

8 第2回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会 開催報告

河川砂防技術基準（調査編）の環境分野の記載が最新の学術的・技術的水準および現場実務での活用実態・実績を踏まえたうえで、必要かつ十分なレベルで適宜改定されるよう、国土技術政策総合研究所（国総研）と応用生態工学会、土木学会水工学委員会環境水理部会の3者が定期的に意見交換を行う仕組みを構築することを目指して、平成26年9月から意見交換会が開催されています。第2回意見交換会が下記のとおり、開催されました。

日時：平成27年3月12日（木） 10:30～12:00

場所：早稲田大学西早稲田大学キャンパス 201 教室

出席者：

応用生態工学会：水源地環境センター中村敏一技術参与、徳島大学河口洋一准教授、名古屋大学田代喬准教授

土木学会環境水理部会：京都大学角哲也教授、芝浦工業大学宮本仁志教授、山口大学赤松良久准教授

国土交通省国総研：鳥居謙一河川研究部長、福濱方哉水環境研究官、中村圭吾主任研究官
土木研究所：萱場祐一上席研究員

議事次第：

- ・ 前回議論の確認
- ・ 河砂基準の改定内容&項目の候補案
- ・ 河道樹林化に関する話題提供
- ・ 今後の予定

概要：

・ 国総研鳥居河川研究部長ご挨拶、前回議論の確認の後、以下の3点の検討方針等について国総研から説明がありました。

- ① 「河川環境の総合的な分析」を充実し、河川環境に関する情報の見える化を図る
- ② 個別課題の調査法についても可能な範囲で加筆
- ③ 新技術について追加する

・ 河川水辺の国勢調査のデータの生かし方について

（国総研中村主任研究官）、河川水辺の国勢調査を活用した河川環境評価技術－河道掘削を念頭に置いて－（土木研究所萱場上席研究員）、河道樹林化に関する話題提供として樹林化ジョイントワークショップの報告と樹林化カルテ作成の試み（土木学会環境水理部会）について説明がありました。

・ これらを議論の材料として意見交換が行われました。

・ 次回の意見交換会は本年9月の応用生態工学会第19回大会（福島県郡山市）の日程中に行われる予定です。



9 年間行事予定

2015年度行事結果と予定

月 日	記 事
4.1	2015年度(平成27年度)開始
4.6	第1回次期役員募集・推薦委員会 (麴町:応用生態工学会事務所)
4.5~24	国際交流委員会 (メール会議)
4.14	事務局改善ワーキンググループ会議 (麴町:応用生態工学会事務所)
4.25	2015年度海外学会等派遣者 決定
5.12	会誌編集委員会 (麴町:応用生態工学会事務所)
5.12	第64回幹事会 (麴町:応用生態工学会事務所)
5.15~21	第76回理事会(メール会議)
5.22	ニュースレター68号 発行
6.1~30	次期役員候補募集期間
6.12~13	第7回応用生態工学会フィールドシンポジウム in 熊本 (熊本市・球磨川流域)
6.18	第77回理事会 (麴町:弘済会館)
6	会誌「応用生態工学」Vol. 18 -1 発行予定
7.6	第2回次期役員募集・推薦委員会 (麴町:応用生態工学会事務所)
7	第65回幹事会 (麴町:応用生態工学会事務所)
8	ニュースレター69号 発行
8	第78回理事会
時期未定	遠賀川中島自然再生研究会
8月下旬	応用生態工学会札幌セミナー (札幌市豊平川さけ科学館を予定) 「みんなで手づくり模型実験、iRICで検証してみよう」(仮)
9.10~13	応用生態工学会第19回郡山大会 (日本大学工学部キャンパス) 9月10日(木): エクスカーションA【三春ダムコース】(午前半日) 研究発表(ポスター)、自由集会 9月11日(金): 研究発表(口頭)、自由集会、懇親会 9月12日(土): 午前: 役員会・総会等、午後: 公開シンポジウム 9月13日(日): エクスカーションB【相馬松川浦・仙台南部海岸コース】
9.12	第79回理事会、第66回幹事会 (日本大学工学部キャンパス)
9.10~12	大会期間中に、普及・連携、国際交流等の各委員会を開催

9.13 (予定)	国際シンポジウム「流域・沿岸のグリーンインフラの概念と方法論」(仮題) (東京工業大学 くらまえホール)
10	応用生態工学会長野 勉強会(現地見学会+検討会;場所未定)
11	応用生態工学会福井 勉強会(ミニ現地ワークショップ 嶺南)
12	会誌「応用生態工学」Vol. 18-2 発行予定
12	第67回幹事会 (麹町:応用生態工学会事務所)
12	ニュースレター70号 発行
2	第80回理事会
2	ニュースレター71号 発行
2	2016年度海外学会等派遣者の募集
2015年度終了	

10 事務局より

会員データベースを検索すると、入会年度別に現在在籍している会員数が分かります。学会が発足した1997年(平成9年)には732人でしたが、この年に入会した会員が現在でも197人が在籍されています。すでに現役を離れた会員もおられますが、学会にとってありがたい存在と感謝しています。

また、賛助会員で支えていただいている会社、組織、助成金で援助していただいている組織にも感謝しています。学会の経理を担当していると、これらの支援があって、ようやく会の運営が成り立っていることを実感しています。会員の研究活動などが、より活性化することを祈念せずにはおられません。

8-1 会員情報を更新してください

年度初めは、会員の皆様にとって、卒業や転勤、部内異動など、会員情報の変化が多い時期です。

せっかく会費をお支払いいただいておりますが、アドレスエラーや転居先不明でニュースレターや学会誌が戻ってくるケースがかなりの数があり、再送をあきらめるケースもあります。メールアドレスと住所、電話は必須です。メールアドレス等の会員情報が変更となった場合には、下記の学会ホームページからお知らせください。

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

8-2 事務局への連絡方法

事務局へのお問い合わせや連絡は、まずはメールでお願いします。記録が残り、間違いが少なくなりますので、電話より有効です。必要になれば、学会から電話でもご連絡いたします。

学会事務局のアドレスは、e-mail: eces-manager@ecesj.com です。

[2015年5月5日現在会員数]

名誉会員	:	6名
正会員	:	952名
学生会員	:	112名
合計	:	1,070名

LEF購読者数

正会員	:	94名
学生会員	:	2名
合計	:	96名

賛助会員 : 32法人(47口)